

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

4

2011 SUMMER

特集Ⅰ

白熱! 感動! 発見!

熊本大学の名講義

特集Ⅱ

有明海に自然豊かな生物の場を再生

よみがえれ! くまもとの海よ



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

五高記念館

国指定重要文化財「五高記念館」は明治を代表する建築家・山口半六の設計。夏目漱石、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)らが行き交った静謐(せいひつ)な空間。

熊大通信

vol. 4 | 2011 SUMMER

熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

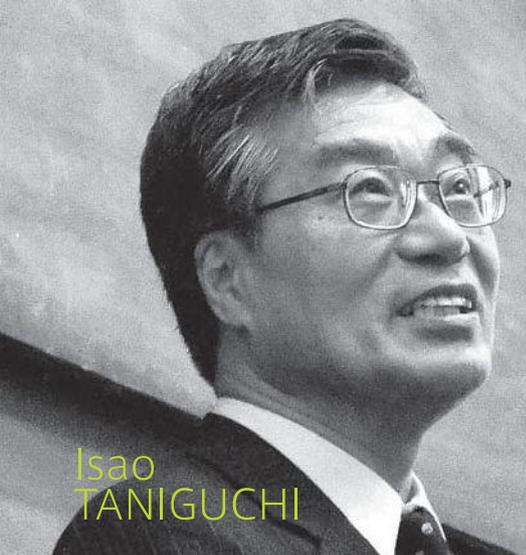
【編集】 熊大通信編集委員会
田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科
大辻 正晴／文学部
河野 順子／教育学部
朝田 康禎／法学部
中田 晴彦／大学院自然科学研究科
米満 孝聖／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制作】 株式会社カラースプランニング

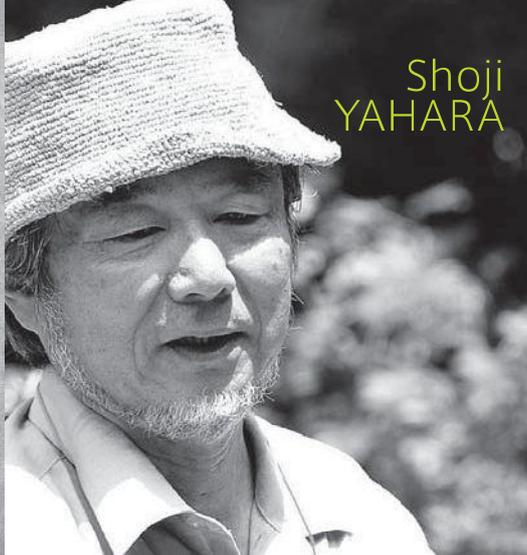
CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 白熱！感動！発見！ 熊本大学の名講義
- 09 研究室探訪 生きた国際法を学び
国際感覚を身に付ける
法学部国際法 林 一郎研究室
- 11 特集Ⅱ 有明海に自然豊かな生物の場を再生
よみがえれ！くまもとの海よ
熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター
- 13 国際交流 インタビュー
熊本大学から世界へ 石橋 めぐみさん
世界から熊本大学へ アトウフェヌア・マウイさん
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 KUMADAI TOPICS

表紙／旧制第五高等学校化学実験場で行われる学長講義



Isao
TANIGUCHI



Shoji
YAHARA



Atsushi
ASAI



Akiko
SOEJIMA



Hiroshi
KOMATSU

特集I

白熱!感動!発見!

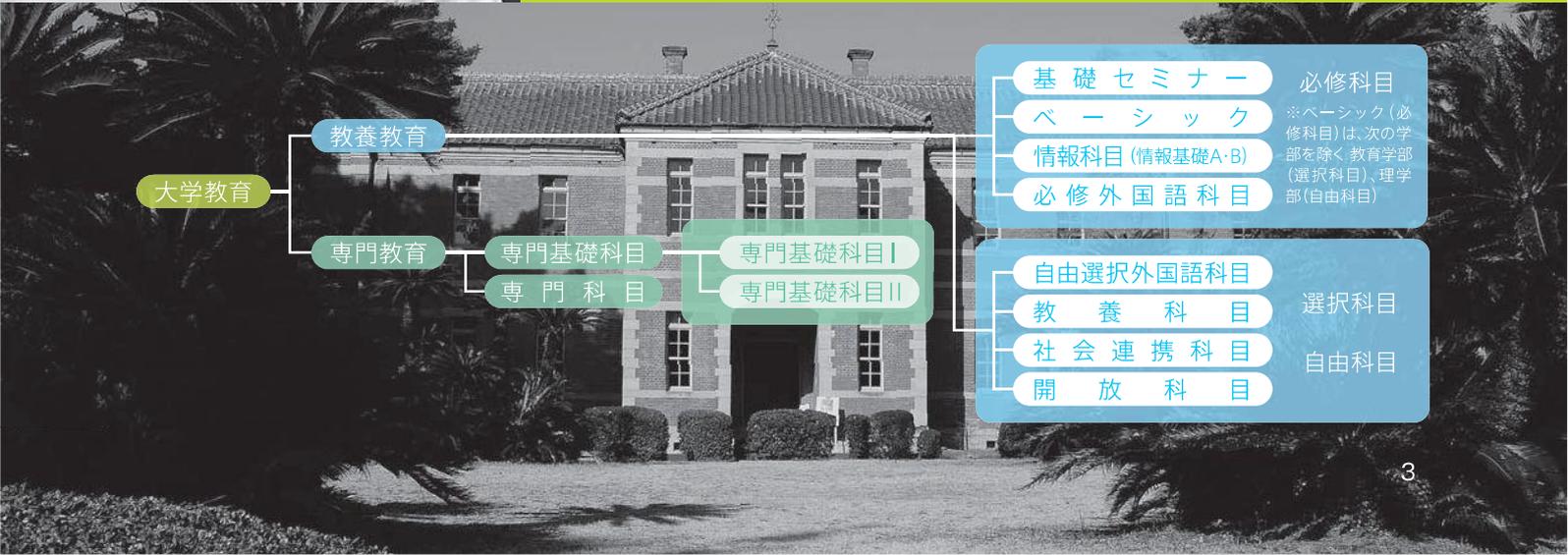
熊本の 大学の 名講義

熊本大学では、創造的人材の育成を目指し、総合的な教育を行っています。

主に1~2年次の教養教育は高度な専門教育への導入として、さまざまな科目により構成されています。

そして専門教育では、個性派ぞろいの教員たちが、多彩な講義・演習を展開しています。

“熊大の教育力”が詰まった“名講義”をご紹介します。



基礎セミナー 必修科目
ベ－シ－ク ※ベ－シ－ク(必修科目)は、次の学部を除く教育学部(選択科目)、理学部(自由科目)
情報科目(情報基礎A・B)
必修外国語科目

自由選択外国語科目 選択科目
教養科目
社会連携科目 自由科目
開放科目

入江 徹美 教授

(大学院生命科学研究部薬剤情報分析学)

矢原 正治 准教授

(薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター)

科学の方法

～クスリと賢くつきあうには～

衣食住や薬用植物・生薬をはじめとする薬など人の健康を守る“幅広い意味での環境”と捉え、環境を守る行動力のある人を育てる講義です。

身近な植物や食べものから学ぶ

大学院生命科学研究部薬剤情報分析学の入江徹美教授と薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンターの矢原正治准教授による基礎セミナー「科学の方法」クスリと賢くつきあうには」。まだ入学したばかりで、専門知識を持っていない一年次の学生に、クスリに関心を持ってもらうことと、クスリを正しく使用するための知識を身に付けてもらうことが目



学生の声
「もっと、食に向き合おうと思います」
「植物が持っている力にびっくり！」



ナツメの葉による食味変化を体験。植物が持つ力を知り、クスリへの興味が深まっていく

的の講義です。

この日は、矢原准教授の担当。講義の冒頭、学生たちに配られたのは、味覚を変えてしまう不思議な植物・ナツメの葉でした。この葉をガムのように噛んで、口の中で30秒ほど転がし、その後にはチョコレートを食べると、甘みが消えて、カカオ本来の味のみが口に残ります。さらに30分ほどして再びチョコレートを食べると、いつもと同じチョコレートの味。学生たちは、身近な植物や食べものから学ぶ講義に興味津々です。

参加型の講義で自ら学ぶ

「一人暮らしの学生も多く、大学生は食生活が乱れやすい。きちんと食べていないために体調を崩し、大学の講義を休むようなことがあったら本末転倒です。やはり、学生の本業は学業。この講義を通して、心身のバランスを保つ術を学ん

でほしいですね」と話す矢原准教授。講義の中では、植物を実際に手に取らせてみたり、フィールドに出て植物を観察したり。「体験型の講義から学び取ったことを、普段の生活の中にも生かしてほしい」と話します。

一方、入江教授の講義は、少人数のグループに分かれて、「クスリと賢くつきあうには」をテーマに討論を繰り広げます。

グループワークやKJ法(※)を用いることで、学生は必然的に講義に参加しなければなりません。「見学型の講義ではなく、参加型の学習への転換を目指しています。他の人の意見を聞き発言すること、そしてそれを取りまとめて発表する力を身に付けながら、自分たちで授業をつくっていくことが大切です」と入江教授。身近な物事に興味を持って、学生たちがワクワクしながら学べる環境づくりに力を注いでいます。



「薬用資源エコフロンティアセンター」に咲き誇る「アマチャ」も教材の一つ。実際に、さまざまな有用植物を手にとり観察できる

※KJ法……文化人類学者・川喜田二郎による発想法。複数人の考え方やアイデアをカードに書き出し、内容を整理しながら解決法を導き出す

小松 裕 教授
(文学部)

人権と性を考える

本学のセクシュアルハラスメントやアカデミックハラスメント防止、人権問題に関する啓発活動の取り組みを受け、広く人権について知る講義です。



学生の声
「この講義で学んだことは一生忘れない」
「病気に関する考え方が変わった」

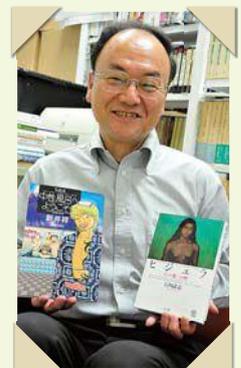
人間力を高める当事者の言葉

ハンセン病快復者や在日韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人の方々、性同一性障害の人々など、差別や偏見に苦しんできた当事者を招いて行われる文学部歴史学科・小松裕教授の講義は、自分と異なる立場の他者を理解し、共感する「他者感覚」を磨き上げることが目的としています。

現在も、薬害B型・C型肝炎問題、胎児性水俣病やジェンダー、セクシュアル・マイノリティーなど、人権に関わる問題は後を絶ちません。小松教授は、学生たちに考えるきっかけを与えることが大学の授業だと考えています。「学生たちには目の前にある問題に気付き、決していく力を培ってほしい。特別な立場の人のことだけでなく、男性として、女性として、多様な生き方があることを知ることが大切なんです」。



中国から留学中の黄沢民(こうえきみん)さん。講義を通して、全く意識していなかった自らの偏見に気付いたという。「体の不自由な人にも積極的に声を掛けられる自分になったことが、すごくうれしい」



「言葉から得た知識は、いつか生きる力になる。自分らしく生きることが大切」と語る小松教授

この日のテーマは「ハンセン病問題の歴史と現状」。菊池恵楓園入所者自治会前会長の太田明さんが、長く苦しめられたハンセン病の真実を淡々と語り、かつて日本中のハンセン病患者を施設に強制収容して、県内から「らい」(現ハンセン病)を無くそうとした、無らい県運動」という悲惨な社会運動は、ハンセン病患者とその家族の人権を奪いました。そしてその偏見は今も続いているのです。

当事者が発する言葉の力に、引き込まれていく学生たち。中には、胎児性水俣病関連施設を訪れ、当事者や関係者から

話を聞いたり、施設の手伝いをするなど、自ら現地を訪れて交流を重ね、正面から問題に向き合う学生たちもあり、その関心の高さがうかがわれます。また、この講義は「授業解放」も行っており、学生以外の一般の受講者も熱心に講義へ通っています。

「知識として得るのではなく、生の言葉で受け取ると心に染み通っていくのが分かるでしょう。講義の後、学生たちが自ら現地へと足を運び、人々と触れ合うことも珍しくありません。彼らの、人間力の成長に期待します」。



「ハンセン病の歴史を知り、真実はどこにあるのか、しっかりと考えてほしい」と、太田氏は語りかける

Topics

熊本大学がやってくる!! 出前授業

大学の授業を教室で体験しよう！熊本大学では高等学校に出向いて、専門的な内容を分かりやすく皆さんに教授する「出前授業」を実施しています。高校とは違う大学ならではの講義の面白さを知るチャンスです。

【総合問い合わせ先】
学生支援部入試ユニット
Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954
E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp

■ 出前授業を行っている学部

文学部	ホームページで詳細をチェック Tel.096-342-2317
教育学部	随時申し込みを受付中 Tel.096-342-2522
理学部	ホームページで詳細をチェック Tel.096-342-3321
医学部 保健学科	案内状を送付。要連絡 Tel.096-373-5456
薬学部	随時申し込みを受付中 Tel.096-371-4635
工学部	ホームページで詳細をチェック Tel.096-342-3522

3限目：専門教育（専門科目）

副島 顕子 教授

（大学院自然科学研究科理学専攻生命科学講座）

植物多様性学

自然界の生物多様性がどのように維持され、また変化するのか、比較形態や分子生物学的な手法で研究。進化における遺伝的多様性の役割についても考える専門科目です。

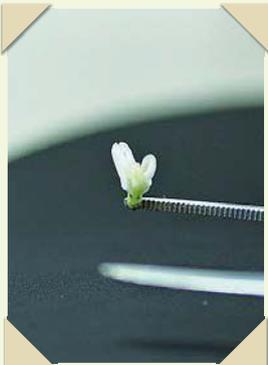
自分で見て、考えることが第一歩

「実物に触れて確かめて、知識を確実に自分のものとするところこそが、うそやごまかしのない論理的な思考の基礎である」ということを学生たちに伝えるべく、前期には観察を中心とした実習を行っている大学院自然科学研究科理学専攻生命科学講座の副島顕子教授。

いつも通り過ぎる学内の花壇をのぞいてみると、シロツメグサ、オオバコ、ド



学生の声
「植物と共に生きていこうようになった」
「本能的に進化や分化する植物ってすごい！」



顕微鏡で見るシロツメグサの花。この小さな花がたくさん集まって、一つの花のように見える“花序”をつくる

クダミ、ハコベなど、無数の野草が目に見え込んできました。副島教授の説明を聞きながら、それを採取する学生たち。何気ない道端に咲く草花が、どのように進化して、分化していったのか？そして、それらの植物は、どのように働いているのか？生物多様性を維持する仕組みを探ります。

植物って、本当にスゴイ！

この日のテーマはマメ科。その花は左右対称で、バタフライ型をしているのが特徴の一つ。種によってさまざまな形があり、多様性が高い植物です。採取したのは、シロツメグサとデイゴ、インゲンの3種類。学生たちは思い思いに花を選び、顕微鏡をのぞきながらスケッチを始めます。

顕微鏡を通してみるシロツメグサの花弁は、まさに白い蝶のよう。丁寧にスケッチをしながら、構造を調べていきます



「阿蘇や天草をはじめ、くまもとのフィールドって素晴らしいですよ」と語る副島教授

す。「一見、ネムノキとシロツメグサは全く違う植物に見える。同じ科でもいろんな種類に分かれているのはなぜ？」と学生の一人がつぶやきました。「疑問や質問ができるようになったということは、自ら勉強するようになったということ。彼らの成長がうれしいですね」。

後期には、植物からDNAを採取し、その系統を塩基配列からひも解いていく実習がスタート。学生たちにとって、いよいよ前期に積み上げてきた知識を基に、「生物種の分化や系統」「生物多様性と維持」などの観点から、生命のしくみに対する理解を深めていきます。

「沖縄ではほとんど常緑で成長するデイゴですが、この冬、熊本の気温が氷点下になったとき、バッサリと葉を落したんです。そうやって熊本の寒い土地に適合していく。身近な植物の変化からその進化の背景が見えてくるんですよ」と副島教授。植物に向き合い、「なぜ？」「どうして？」という学生たちの疑問から、また新たな研究が始まります。

浅井 篤 教授

(大学院生命科学研究所生命倫理学分野)

映画を通して考える

生命倫理

大学院生命科学研究所生命倫理学分野 浅井 篤 教授の講義の一つは、世界各国の映画を通して、医療と生命倫理について考える「シネメデュケーション」。すでに海外では10年以上も前から映画を用いた臨床医学の教育が行われてきました。

主人公の人生を追体験して考える

薄暗い教室のスクリーンに浮かび上がるさまざまな人生。学生たちは食い入るように、主人公の生きざまに引き込まれていきます。生命倫理とは、生命に関する倫理的問題の研究分野。安楽死、人工妊娠中絶、代理母出産、脳死、臓器移植、終末期医療など、さまざまな医療の現場で起こる問題に向き合うための講義です。浅井教授は、「映画を見ることによって、潜在している倫理問題を実感することができる。登場人物の立場を追体験して、『どのような人間であるべきか、どのような徳性を持つべきか』という問題に向き合う



学生たちが自ら選んだ映画を見た後は、意見を交換

「シネメデュケーション」の意義を語ります。ことができると、

内在する

普遍の生命倫理の問題を知る

講義の中心は、生命倫理問題について描いた映画の視聴と、少人数の班に分かれたディスカッション。

例えば、全身不随に陥り、安楽死を30年以上も望み続けた男性を描いた「海を飛ぶ夢」に対して、唯一残った機能で文字を打ち、本を出版した編集者の生きざまを描いた「潜水服は蝶の夢をみる」など、違う角度から「生」を描いた映画を取り上げ、学生たちに問題提起。

「安楽死を願う人に対して、執筆のために生きようとした人。同じ境遇にある二人の人生に向き合うことが、倫理的問題を深く考察する上で重要ですね」と浅井教授。



講義で見る映画を選ぶのも学生主導。双方の講義がモットーだ



「海を飛ぶ夢」は、安楽死の賛否両論をバランスよく取り上げた傑作。2004年ヴェネチア国際映画祭審査員特別賞や2005年アカデミー賞外国語映画賞など受賞多数。新旧を問わず、医療と生命倫理に関わる名画を取り上げていく

作品ジャンルもエンターテインメント、文芸作品、コメディ、カルト、ノンフィクションなど多彩。一見、医療や生命科学に関連性の低いと思われる作品の中でも、関係するシーンを視聴し、さまざまな場面に内在する普遍的な生命倫理の問題点について考えます。

最初は意見も言えなかつた学生が、自分の意見を積極的に述べるようになり、予習に全編見てくるなど、彼らの成長を静かに見守る浅井教授。「大切なことは、身近な問題として考えること。学生たちが映画のシーンで心を動かされ、作品が訴える問題を自然に考えるようになることが目標です」。

学長講義

1889年に建てられ、国の重要文化財に指定されている旧制第五高等学校の化学実験場で、1年生を相手に熱弁を振るうのは谷口 功学長。大学の歴史や伝統、目指すべき姿を自分の言葉で伝えたいと、教壇に立っています。

「君たちは未来を担う財産なんだ」

「君たちは未来を担う貴重な、人財」。大いに学び、国際社会をけん引するリーダーに育ってほしい。本年度から始まった学長講義は、新入生を相手に学長自ら熱いメッセージを送る全国でも珍しい講義です。谷口学長は、「講義を行う化学実験場は、かつて明治時代を担った熱い若者たちが学んだ熊本大学の学びの原点。先達が学んだ階段教室の空気感を感じな

がら、大学でやるべきことや、それを生かして社会にどのように貢献していくのかを考えてほしい」と語ります。

「誇れる大学から憧れの大学への挑戦」というテーマで行われた講義では、ナンバースクールとして著名な教授陣や卒業生を輩出してきた歴史を紹介。さらに、現在学内で行われている先端的研究や教育への取り組み、そして熊本大学の目指すところを具体的に示した「アクションプラン2010（谷口プラン）」について熱く語りました。また「東日本大震災をどう乗り越えるか」について学生たちに問題提起。震災直後から熊本大学が行っている迅速な支援の取り組みを紹介しながら、「君たちならどうするのかをレポートにまとめるように」と締めくくりました。

「学生たちのレポートを見ると、世の中の役に立ちたいという思いにあふれている。今現地に駆け付けることだけが支



学生たちは、普段接することが少ない学長の熱意あふれる声に聞き入っていた

援ではない。大学で専門的な力を身に付け、長期的に支援していくことを考えてほしい」。講義を受けた教育学部1年の西郷雄祐さんは「大学で学ぶことが社会貢献に直接つながるんだと思うと、やる気が出ました」と高揚した表情を浮かべました。

学生の声
「学長が真剣に向き合ってくれてうれしかった」
「自分たちがやるべきことを
分かりやすく教えてもらった」



「学生たちに元気になってほしい」と語る
谷口学長

Topics

学生が優秀教育者を選ぶ!? ティーチング・アワード

大学の講義をより良くするための活動の一つに「ファカルティ・ディベロップメント=Faculty Development (以下、FD)」があります。熊本大学の工学部および各学科では、「授業改善FD委員会」が組織され、教育の質の向上および改善のためのシステムを構築。工学部では学生たちの投票により優秀教育者を決定する「ティーチング・アワード」を開催し、本年度で第9回を数えます。そのほか、学生たちに「授業改善のためのアンケート」を実施。講義を受ける学生たちの厳しい目で評価されるからこそ、さまざまな名講義、が生まれているのです。

研究室探訪

Laboratory Exploration

同研究室では、環境、領土、人種差別など、現代の国際社会が抱えるさまざまな問題について学生たちが自由にテーマを選び、研究を進めています。この日行われた3・4年による「演習Ⅰ・Ⅱ国際法」のゼミでは、3年・古川夏子さんが、「海賊問題」の定義やそれに関わる条約、また現在の日本の海賊問題に対する取り組みなどについて研究発表し、学生たちの間で活発な意見交換がなされました。ゼミの中盤になると、林教授はマンガ「ワンピース」や、ソマリア沖の海賊行為、また人気映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」など、“海賊”をキーワードとするさまざまな事例を取り上げることで、生徒たちの興味や関心を集め、より多角的なものを見方を引き出していきます。

林教授は「国際法とは、単に書物に書かれた規範ではなく、現代の国際社会や政治の一部です。具体的に生きた国際法を学ぶことで、学生たちに広い知識や視野を身に付けてほしい」と語ります。

また演習の後半では、「国際法模擬裁判」を行っています。同研究室では2003年より「国際法模擬裁判」に取り組んでおり、授業でも国際法上の架空の紛争に対し、学生たちが法議論（ディベート）を展開し、大学院生も参加しています。学生たちは、文献の精読、事前リサーチ、レジュメの作成、プレゼンテーション、ディスカッションやディベートなど、模擬裁判を通じ総合的な力を身に付けていきます。そのほか、「法学部基礎演習Ⅱ（2年）」の「模擬国連総会」の授業では、学生たちが各国の代表となり、環境問題や領土問題などの事例についてディベートを行います。「模擬裁判や模擬国連総会では、学生たちの斬新なアイデアに驚かされることがあります。法という狭い分野だけでなく心理学、経済学、物理学などさまざまな知識を駆使して、自由な視点で発言することで、国際法の知識が深まるだけでなく、一つの問題を解決したという達成感を得ているようです」と林教授は語ります。

毎年アメリカで行われる「国際法模擬裁判」の世界大会に出るのが夢と語る同研究室の皆さん。信頼関係の下で自由に意見を戦わせ、お互いの人間力を高め合う姿が印象的でした。

林 一郎 研究室

法学部

国際法

世界秩序を保つため、
さまざまな国際問題を解決に導く国際法。
林一郎教授の研究室では、
現代国際社会が抱える諸問題を解決する国際法や
国際紛争の画期的解決法である
「紛争転換」などについての研究を進め、
国際感覚にたけた優秀な人材を育成しています。



↑「模擬国連総会」の授業では、林教授がニューヨークの国連本部で購入したベルが総会開始を告げる

←「演習Ⅰ・Ⅱ国際法」のゼミで、「海賊問題」について発表をした法学部3年の古川さん。「たくさん質問を受けて、勉強不足を痛感しました。さらに知識を深めたいですね」と語る

↙「無類の国連マニア」と語る林教授。「模擬国連総会」の授業では、国連のネクタイなどの国連グッズを身に付けるのがユニホームなのだとか

↓「海賊問題」についてあらゆる視点で質問や議論をする学生たち。ローマ時代の海賊からシーシェパードの問題までさまざまな話題が出た





生きた国際法を学び 国際感覚を身に付ける

林研究室には、林教授(後列右から2人目)をはじめ26人の学生が所属。世界情勢の流れを受けたアップデートな課題の研究に取り組んでいる

熊本港の現地実証試験地マップ



特集Ⅱ

有明海に自然豊かな生物の場を再生

よみがえれ！ くまもとの海よ



防護護岸などがあり、なぎさ線を作れない場所への対策として
造成された「エコテラス護岸」

～熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター～

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターは、
有明海・八代海を中心とする沿岸域の自然・社会環境について、多角的な研究を行い
地域社会へ貢献することを目指して、さまざまな取り組みを行っています。
また、港湾などのしゅんせつ工事で生じる土砂と、リサイクル材を活用した新規環境材料を産学連携で共同開発。
海の環境回復に向け、新たなステージが始まります。



海の自然・生態環境を守る



「地域のために、社会のために。大学人として生まれたからには、豊かな地域づくりのために、尽くしたい」と語る滝川 清教授

水の流入が少ない閉鎖性海域では、海岸線の開発や長年にわたり溜まった海底堆積物の泥化、海水中の酸素不足などが原因となって海底がヘドロ化し、そこにすむ生物たちの種類と個体数が減少。生物多様性は脅威にさらされています。

同センター長・滝川 清教授率いる研究グループは、失われつつある有明海の生物多様性を守ろうと、「干潟なぎさ線」の回復に挑戦。干潟なぎさ線とは、陸と海の境界線に当たり、満潮時になると海水に漬かるエリアのこと。本来はさまざまな生物の場であり、アサリやハマグリなどの海産物を育む漁場でもありました。しかし、近年そうした生物は姿をひそめ、漁業にも大きな影響が表れているのです。

干潟を回復するために、同センター研究グループは人工巣穴を作るなど、微生物による浄化機能を向上させ、ヘドロが溜まった海底の環境をより良くするほか、

産学連携で新規環境材料を開発

日本各地で行われている船舶の航路維持や港湾機能の向上に向けたしゅんせつ工事で、大量の海底しゅんせつ土が発生。しかし、それを処分するための処理場が不足しており、海底しゅんせつ土の有効活用は大きな課題の一つです。

同センターに株式会社福岡建設と日本製紙株式会社から「紙の製造工程で生じる繊維かす（ペーパーラスジ）の灰（以下、PS灰）」を有

- 現状
- ① 砂不足など海の再生に必要な資源の枯渇
 - ② しゅんせつ工事で生じる土砂処理場の不足



- 改善
- ① 酸素がある環境をつくる新規環境材料を開発
 - ② 微生物や生物たちが活性化し環境改善



同研究センターが行った現地実証試験では、ソトオリガイ(左)をはじめ、アサリやトビハゼなども確認された

現在、「浚（しゅん）灰サン土（仮称）」として商品化が進められています。

効活用できないか」と相談が持ち掛けられたのは約3年前。滝川教授は、吸水性に富み、水分と反応して固まるPS灰の性質に着目し、海底しゅんせつ土と混ぜた新規環境材料を提案。産学連携共同研究で、環境に優しく土質を改良できる、新規環境材料の開発が始まりました。造粒実験や生物毒性実験を経て、さらにエコテラス護岸で行う実証実験へー。それから約2年を過ぎて、アサリの稚貝などの生物が多数確認され、安心安全な環境材料が誕生しました。

潮の流れを良くして自然環境を整えます。また、海に与える人為的な負荷を減らし、干潟を少しずつ再生していきました。

また、一般の堤防のように、高潮や高波などから地域を守るための防災機能だけでなく、生息する生物や親水機能に配慮した「エコテラス護岸」を考案。熊本港を拠点にさまざまな実証実験を行ってきました。

港には「北なぎさ線」と「東なぎさ線」が設けられ、多種にわたる生物が確認されています。一帯には、絶滅危惧種に挙げられる希少な生物が生息していることも明らかになりました。

海の再生が支える地域の活性化

「最終的には、生物多様性のある海づくり」がゴール」と語る滝川教授。生物も、環境も、30〜40年前から人為的・地球温暖化的な影響を受けてきたと語ります。「有明・八代海の環境悪化が著しい

一方で、熊本は台風の常襲地域で毎年、高潮・高波や洪水などの災害に悩まされており、このため海岸堤防などの防災施設が不可欠な地域でもあります。豊かな自然環境と安心・安全な生活の場づくり」という相反する課題に対して、いかにして環境と防災の調和を図りつつ海辺



熊本港の野鳥の池、干潟なぎさ線などで、海の生物に親しんでもらおうと、例年「干潟フェスタ」を開催。生物と触れ合い、ゲームを楽しみ多くの人々でにぎわう



「地域や社会、未来に向けて、研究成果をどう還元していくか、が一番重要」。熊本港に造られた北と東の干潟なぎさ線には、カニやゴカイなど多彩な生物が定着し、満潮時にはそれらを食べる大きな魚や野鳥もやってくるようになり、本来の生態系が再生されつつあります。

「安全・防災」「開発・利用」という三つの柱を調和させた新たな対応策を検討し、自治体や住民一丸となって、八代海の再生に取り組みます。海の再生は生物多様性を支え、さらに水産資源の回復・増加を促進し、地域の活性化へとつながります。

「安全・防災」「開発・利用」という三つの柱を調和させた新たな対応策を検討し、自治体や住民一丸となって、八代海の再生に取り組みます。海の再生は生物多様性を支え、さらに水産資源の回復・増加を促進し、地域の活性化へとつながります。

づくりを実現していくかが大切なんです。」

本年度から文部科学省の特別予算の下、

5カ年計画で「生物多様性のある八代沿岸海域環境の俯瞰（ふかん）型再生研究プロジェクト」がスタート。「自然・生態環境」「安全・防災」「開発・利用」と

いう三つの柱を調和させた新たな対応策

を検討し、自治体や住民一丸となって、

八代海の再生に取り組みます。海の再生

は生物多様性を支え、さらに水産資源の

回復・増加を促進し、地域の活性化へと

つながります。

「地域や社会、未来に向けて、研究成

果をどう還元していくか、が一番重要」。

熊本港に造られた北と東の干潟なぎさ線

には、カニやゴカイなど多彩な生物が定

着し、満潮時にはそれらを食べる小さな

魚、さらにその小魚を食べる大きな魚や

野鳥もやってくるようになり、本来の生

態系が再生されつつあります。

12カ国の海外ボランティアで 学生生活が自己実現の第一歩に

薬学部創薬・生命薬学科3年 石橋めぐみさん

「国際ボランティアをやりたい!」と、思い切って2010年6月から翌年3月まで大学を休学し、海外へ飛び出した石橋めぐみさん。壁にぶち当たりながらも多くの出会いに支えられ、自分の夢を叶えました。



ツバル

交流



アメリカで、障害を持った方の日常補助ボランティア。
8月9日、長崎の原爆投下の日に、みんなで平和イベントを開催した

薬学研究者を目指して、熊本大学に入學。高校生のころから漠然と抱いていた海外に対する憧れは、大学生活の中で国際協力への関心が変わり、いろんな国の医療現場を訪ね、薬学がどのような形で人の役に立っているのかをこの目で見たいと、思い切ってボランティア活動へ出発しました。



帰国後は、再び研究に忙しい毎日。
各国の体験は、より一層国際協力への思いを高めてくれたという石橋さん

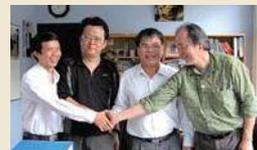
薬学研究者を目指して、熊本大学に入學。高校生のころから漠然と抱いていた海外に対する憧れは、大学生活の中で国際協力への関心が変わり、いろんな国の医療現場を訪ね、薬学がどのような形で人の役に立っているのかをこの目で見たいと、思い切ってボランティア活動へ出発しました。

さらに海外で得た「楽しみ」は、日本に帰ってきた今でも続いています。今までは少し違った視点から見る日本。以前と違って客観視できるのが面白く、より日本のことに関心を持てるようになりました。

大学とは、本気でやりたいと願うことは、自分で動けば何でもできるところだと思えます。海外で過ごすうちに「私にはこれが必要です!」と堂々と言えるスキルが必要だと感じました。だから、残りの大学生活をこの熊大で、より自分を高めるためにいろんなことに挑戦していきたいと思っています。

3/6

薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター、ベトナムDachma国立公園及びCatTien国立公園における植物調査を実施(18日まで)



7

カリフォルニア州立大学フラトン校(アメリカ)で海外FD研修を実施(18日まで) 本学教員8名が参加しました。



10

eラーニング推進機構、eポートフォリオ国際セミナーを開催(11日まで) 海外から講師2名を迎え、eポートフォリオを活用した教育実践先進国である米国、さらにその中でも有数の先進的な取り組みを行っている大学、オープンソースコミュニティとの連携を深めました。80名が参加しました。

19

ニューカッスル大学(オーストラリア) 海外語学セミナー実施(4月5日まで) 短期留学プログラム開講式

4/5

熊本大学国際化推進センター講演会開催

日本学術振興会ストラテジー研究連絡センター 中谷陽一所長が、最近

International exchange Report

国際交流レポート
平成23年3月~5月

世界から熊本大学へ

母国の発展に寄与したい！ 熊大で学ぶ夢のような境遇に感謝

大学院自然科学研究科1年 アトウフェヌア・マウイさん

オーストラリアの大学を卒業後、ツバル政府でコンピューター関連の仕事をしていたアトウフェヌア・マウイさん。熊本大学で最先端の技術を学び、母国のコンピューターの普及・発展に努めたいと目を輝かせます。



トルコ、エジプト、インドなど12カ国



私は、フィジーの北約1000キロメートルのところにあるツバルから昨年4月に熊本大学へやって来ました。専門はコンピューターサイエンスで、特にコンピューターを用いた学習教材とその管理・分析・マネジメントを行う「eラーニング」について宇佐川研究室で研究を続けています。母国ツバルでは、コンピューターの普及率がまだまだ低く、IT知識の習得が今後の母国発展の鍵を握っているといっても過言ではありません。私は今年1月にツバルの学生に向けたeラーニング教材を開発しました。先生のアドバイスや熊本大学に集まる世



妻と3人の子供と5人暮らしのマウイさん。「納豆巻きとうどんが好きです」

界中の文献を参考に開発したシステムを用いて、実際にツバルの「モツフォアセカンダリースクール」の子どもたちがオンラインで学んでいます。言葉の壁や研究の難しさに行き詰まることもありませんが、先生方や日本人の研究室仲間、そして、インドネシア、韓国、モンゴル、パプアニューギニア、中国、トンガなどさまざまな国から来た留学生に支えられて研究を続けています。夜、研究に疲れたら研究室のある12階の窓からライトアップされた熊本城を眺めると、今ここで学んでいる夢のような境遇にあらためて感謝し、よし頑張るぞという気持ちになれるんです。

休日や放課後はラグビー部で汗を流し、福岡や宮崎に遠征に行くなど楽しんでいきます。熊本は食べ物もお酒もおいしく、皆さん親切。恵まれた環境で最先端のコンピューターサイエンスを学ぶことができる境遇に感謝しながら、母国の発展に少しでも寄与できるように、たくさんの方々と吸収したいですね。

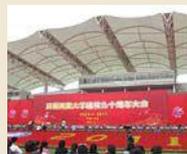
世界中の文献を参考に開発したシステムを用いて、実際にツバルの「モツフォアセカンダリースクール」の子どもたちがオンラインで学んでいます。言葉の壁や研究の難しさに行き詰まることもありませんが、先生方や日本人の研究室仲間、そして、インドネシア、韓国、モンゴル、パプアニューギニア、中国、トンガなどさまざまな国から来た留学生に支えられて研究を続けています。夜、研究に疲れたら研究室のある12階の窓からライトアップされた熊本城を眺めると、今ここで学んでいる夢のような境遇にあらためて感謝し、よし頑張るぞという気持ちになれるんです。

休日や放課後はラグビー部で汗を流し、福岡や宮崎に遠征に行くなど楽しんでいきます。熊本は食べ物もお酒もおいしく、皆さん親切。恵まれた環境で最先端のコンピューターサイエンスを学ぶことができる境遇に感謝しながら、母国の発展に少しでも寄与できるように、たくさんの方々と吸収したいですね。



ラグビーに汗を流すひととき。ここでも大切な仲間たちに出会えた

- 5/4 谷口学長 中国を訪問(7日まで)
南昌大学創立90周年記念式典および学長フォーラム
に出席し、上海交通大学、上海理工大学、上海師範大学および四川大学を表敬訪問しました。
- 9 国立釜慶大学校(韓国)来学
国際交流院院長の鄭淵湖教授が谷口学長を表敬訪問しました。
- 14 熊本留学生交流推進会議主催「留学生フェルカムパーティー」
- 28 熊本留学生交流推進会議主催「熊本城ボランティアガイド養成講座」(全8回)開始
- 28 法学部、韓南大学校法科大学(韓国)と学術・学生交流協定の更新を記念し、シンポジウム「日韓における最近の憲法問題」開催
震災からの復興と憲法、国立大学法人における大学の自治、韓日憲法比較分析等をテーマにシンポジウムを行いました。50名が参加しました。
- 30 海外FD研修報告会を開催
3月にアメリカで研修に参加した本学教員が、研修の成果について報告を行いました。50名が参加しました。
- 31 2011年度シリウス留学生説明会「留学のスミエ」(全4回)開始



卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



大岩 弘子 Hiroko OIWA

株式会社イリア インテリアデザイン部（東京）勤務
工学部環境システム工学科・平成18年度卒／大学院自然科学研究科建築学専攻・平成20年度修了

大学では建築という多義的な分野に在籍し、空間をつくることに必要な知識や技術をさまざまな視点から学びました。現在は、インテリアデザイナーとして空間づくりに携わっています。在学中の6年間、自分の可能性を見極める機会に多く出会えたことに感謝しています。幅の広い学問に身を置いたことで自分の進む方向性に悩むこともありましたが、多様な物事に出会い、苦戦しながらも取り組んだ日々の積み重ねが、今につながっていると感じます。大学は自分次第でどんな物事も出合える可能性に満ちた環境です。在校生の皆さん、思考を止めず、行動を止めず、今を精一杯謳歌（おうか）してください。



原田 一恒 Kazutsune HARADA

小野薬品工業株式会社水無瀬研究所（大阪）勤務
薬学部薬科学科・平成12年度卒／大学院薬学教育部分子機能薬学専攻博士後期課程・平成17年度修了

現在入社6年目、主に細胞や動物を用いて化合物を評価する薬理部門に所属しています。新薬候補となる化合物の有効性を直接目にするには非常にエキサイティングです。病気で苦しんでいる患者さんに新薬を届けたいと、日夜研究に励んでいます。私の原点は、研究室時代の朝ゼミ。最先端の科学英語論文を学生が紹介するセミナーは毎回レベルが高く、数多くの研究のエッセンスを学びました。また、「よく学びよく遊ぶ」の精神で、さまざまな分野に対して広い視野を持つことの大切さも学びました。大学時代の恩師や仲間との出会いがあればこそ、今の自分があります。皆さんも出会いを大切に素晴らしい大学生活を送ってください。



村上 純也 Junya MURAKAMI

村上司法書士事務所（熊本）勤務
法学部公共政策学科・平成14年度卒

司法書士として、法務局や裁判所などに提出する書類作成をはじめ、司法書士法に基づいた訴訟活動、これらに関する相談などの業務を行っています。近年、成年後見人などの財産管理に携わる機会も増えています。在学中は、せっかく法律を学べる学部に入ったのだから、何か資格を取れるまで頑張ろうと思い、司法書士を目指しました。法律の他にも、経済など視野を広げるさまざまな講義があり、積極的に受講しました。卒業後、3年目で試験に合格。市民の権利擁護に向け、日々励んでいます。皆さんと一緒に社会を支えていける日を楽しみにしていますので、多彩な分野で力を発揮できるように勉強し、心身を鍛え、しっかり遊んでください。





魚住 有佳 Yuka UOZUMI



熊本日日新聞社 勤務
文学部人間科学科認知情報論分野・平成16年度卒

熊本日日新聞の小中学生向け紙面「くまTOMO」の企画・取材を担当しています。内容は県内著名人の子ども時代のインタビューやニュースの分かりやすい解説などです。どうしたら子どもたちに新聞を読んでもらえるか、日々考えながら取材・執筆しています。在学中は講義やゼミのほか、環境・福祉分野に携わる市民の方とボランティア活動なども行ってきました。その時に築いた人とのつながりは今も貴重な財産です。ゼミや就活などやるべきことはたくさんあると思いますが、目の前にある一つ一つを丁寧に、楽しみながら取り組んでください。その蓄積が後々の自分の糧になると思います。

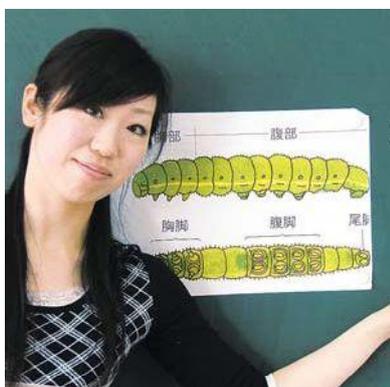


中江 吉希 Yoshiki NAKAE



大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学講座（大阪）勤務
医学部医学科・平成17年度卒

大学生のころは勉強を本当にせず、留年もしましたが、医者になってからは目の前の患者さんが困っているため、必死になって臨床医をやってきました。臨床医を7年続けてきた中で、がんの患者さんにおける免疫動態に興味を持ち、今年から大阪大学大学院に入学し、研究を始めました。大学生時代に勉強をもっとしておけばよかったという思いもありますが、サッカーに夢中になったことや多くの人と出会えたことを通じて、常に多くの人に支えられているという事実を熊本大学で学べたことが、今の私の原点です。私の医療が誰かの支えになれるよう今後も医者をしていこうと思います。



永岡 由利子 Yuriko NAGAOKA



明治学園小学校（北九州）勤務
教育学部小学校教員養成課程理科教育専攻・平成21年度卒

現在、明治学園で小学校教諭をしています。学園は小中高一環教育で、英語・理科に力を入れており、昨年は理科専科として、今年は3年生の担任として、子どもたちと一緒に学ぶ日々です。学生時代の教育実習・卒業論文の取り組みは、現在の教材研究の原点。夏休み中には、理科体験学習のワークショップを開いたり、近隣の大学(九州工業大学)と学園の森の植生を子どもたちと研究するなど、今後も体験学習の活動を行っていきたくと思っています。

在学中のみなさん！今、その恵まれた環境・時間・仲間を大切に、自分のやりたいことを突き進んでいってください。必ず自分の財産になると思います。共に頑張りましょう！



宮脇 崇 Takashi MIYAWAKI



福岡県保健環境研究所（福岡）勤務
理学部地球科学科・平成11年度卒／大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻・平成13年度修了

大学院を修了後、民間企業研究員および大学教員を経て、現在は福岡県の研究職員（化学）として勤務。水質や大気中の環境汚染物質をはじめ、人体試料における有害物質の検査業務やカネミ油症に関連した研究も行い、県の行政を科学的・技術的側面からサポートしています。在学中に得たことは、自分で考え、実行できるようになったこと。教科書や文献から学ぶことも大切ですが、自分自身で調べて得たデータに勝るものはないと思います。そして「サイエンス」を面白いと思うようになったことも大きな収穫でした。学生の皆さん、明確な目標を持って、諦めずに何度もチャレンジしてください。

➡ 夏目漱石の孫・松岡陽子マクレイン氏、五高記念館へ来館



去る5月2日(月)、夏目漱石の孫である松岡陽子マクレイン氏(オレゴン大学名誉教授)が、五高記念館を訪れました。本学OB・今江正知氏が会長を務める「くまもと漱石倶楽部」の招待により実現したものです。

松岡氏の来熊は3回目。谷口功学長の案内で特別展示「漱石を取り巻く人々」を見学。漱石をはじめとする家族写真や、当時の新聞記事を前に、藤本秀子研究員の説明に熱心に耳を傾けました。

「素晴らしい文化財とよくまとめられた資料を拝見できて、本当によかった。漱石の魂はここにあるよう

な気がします」と松岡氏。

翌3日(火)には、「桜の馬場 城彩苑」で、「漱石と鏡子夫人」と題した講演を行い、素顔の漱石とバイタリティーあふれる鏡子夫人の波乱の生涯を語り、場内の漱石ファンを魅了しました。



➡ 熊大職員ソフトボール部壮年チーム 西日本壮年ソフトボール大会で準優勝



本学の職員を中心に構成するソフトボール部の壮年チーム(40歳以上)「熊本大学倶楽部」は、5月7日(土)から8日(日)まで鳥取県米子市

にて開催された「第28回西日本壮年ソフトボール大会」に、熊本県代表として出場。初出場ながら、各県の代表チームを相手に勝利を重ね、準優勝

という好成績を収めました。

同チームは、「西日本壮年ソフトボール大会」「全日本壮年ソフトボール大会」「日本スポーツマスターズ大会」の3大会出場を目標に練習を重ねており、平成21年に開催された「第24回全日本壮年ソフトボール大会」ではベスト4に進出。次の大会に向け、常に向上心を持ち、日々熱い練習に励んでいます。

➡ くまもとの3トップが熱い議論「第3回 くまもと都市戦略会議」

熊本県と熊本市、そして熊本大学のトップが一堂に会し、くまもとの都市戦略を構想・実現する「第3回くまもと都市戦略会議」が、6月1日(水)に熊本市役所で開かれました。政令指定都市移行を踏まえて発足した同会議のテーマの一つは、コンベンション機能向上。本会議では、大規模コンベンション施設の立地について、桜町再開発地区に新設することで三者が正式に合意。熊本市のコンベンション機能の拡充に一步踏み出しました。

新施設は約3,000人を収容できるホールと複数の会議室のほか、国際会議室を備え、周辺施設と合わせると



5,000人規模の会議にも対応。谷口学長は、「3,000人規模の学会をくまも

とで開けるようになれば、くまもとの活性化につながる」と語りました。

⇒ 熊本大学オリジナル
ECOバッグ完成

本学の学生団体「Linkuma」による、熊本大学オリジナルECOバッグが完成しました。サイズや用途など、ニーズを把握するために、学内アンケートを実施。デザインについては、学内公募で集まった14のデザインの中から、投票によって教育学部技術科OBの古庄理史さんのデザインに決定しました。

完成したECOバッグは、マチ付きのランチバッグ型。使いやすいサイズで、持ち歩きやすいデザインのバッグに仕上がりました。6月下旬より、本学生協にて販売しています。



Linkuma…熊大広告KumAnd・生協組織部・体育会・文化会・熊粋祭実行委員会のメンバーで構成されており、オープンキャンパスの学生企画などのイベント企画を行う学生団体

⇒ 薬用資源エコフロンティア
センター定例イベント

月例薬用植物園薬用植物観察会
日時／毎月第1土曜11:00～13:00
場所／薬学部薬用資源エコフロンティアセンター管理棟前

資料代／100円、筆記用具持参
初級 漢方とハーブ
日時／毎月第4日曜19:30～21:30
場所／宮本記念館1Fカンファレンスルーム
資料代／100円、筆記用具持参

【問い合わせ】
薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター 矢原
Tel.096-371-4381
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp
※イベントの開催場所は変更になる場合があります。

⇒ 文化的景観保全と地域マネジメントに関するシンポジウム

地域固有の歴史ある風景「文化的景観」保全と地域マネジメントに関するシンポジウムを開催します。

日時／7月12日(火)
16:00～18:00(懇親会19:00～)

場所／熊本市国際交流会館5F
資料代／500円

※要申込。7月5日(火)までにメールまたはファクスにて

【問い合わせ】
政策創造研究教育センター 田中

Tel&Fax.096-342-2040

E-mail:110712sympo@gmail.com

http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/

⇒ 第9回レトロコンサート

子飼商店街内で行なっているコミュニティ音楽療法と連動した、学生が中心となって企画する高齢者



の方々向けのコンサートです。音楽と笑いで地域活性を目指します。

日時／7月23日(土)
14:00～16:00

場所／くすの木会館
レセプションルーム

対象／地域在住高齢者の方
および一般

参加費／200円(茶菓子代)
※事前申込不要

【問い合わせ】
文学部総合人間学科木村研究室

Tel&Fax.096-342-2850

E-mail:pkimura@kumamoto-u.ac.jp

数字でわかる 熊本大学 #05

2010年オープンキャンパス参加者

前年比約122% 10,302名! 受験生が全国から来学

受験生にとって素顔のキャンパスを知るチャンス! 初夏の訪れとともに、全国の大学でオープンキャンパスが開催され、受験ムードも一挙に盛り上がります。

本学のオープンキャンパスは、例年8月の初旬に行われており、九州内はもちろん、全国から熊大生を目指す受験生たちがやってきます。平成17年の参加者は、7,149名。同21年には8,454名へと増え続け、昨年はなんと10,302名もの参加者が集まりました。前年比増加率は約122%!

「2010年版大学ランキング」(朝日新聞出版)によると、高校生がオープンキャンパスに参加する目的は①キャンパスの雰囲気を知ろう(63.9%)②受験予定だから(58.4%)③学部学科や授業内容を知りたかった(50.3%)。迎える学生たちは、未来の後輩たちのために歓迎ムード満点。今年のオープンキャンパスは8月10日(水)。各学部による模擬講義などの体験イベントや熊本大学が一目でわかるDVDの上映会、個性あふれるサークル紹介など、多彩な催しが用意されています。受験生の皆さん、真夏を彩る熊本大学のオープンキャンパスへようこそ!

熊本大学を目指す

オープンキャンパス参加者数の推移



※「熊大通信40号」(2011年3月発行)のP24「数字でわかる熊本大学#04」において、本文中データをまとめたのは「熊本大学環境安全センター」ではなく「熊本大学工学部石原研究室」でした。ご迷惑をお掛けした読者の皆さま、ならびに関係各位に謹んでお詫び申し上げます。

➔ 平成23年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」
(研究成果の社会還元・普及事業)に熊本大学のプログラムが2件採択されました



(独)日本学術振興会が公募するこの事業は、大学等の研究機関で行う最先端の科研費の研究成果について、

小学校5・6年生、中・高校生を対象に、直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さを感じてもらおうプログラムです。

イルカが見る水中の風景
-音で物体を画像化する技術を学ぼう-
洞窟や水深100m以上の深海には、光はありません。このような世界にすむコウモリやイルカやクジラは、音の反射や屈折を利用して、周辺の状況を理解しています。最新の水中を観測する機器を使って、音を利用した環境研究の紹介や音の特性が分かる実習を行います。

日時/7月29日(金)～30日(土)
場所/合津マリンステーション
対象/中学生
定員/20名
申込締切/7月21日(木)まで
参加費/500円、食事代1日1000円
【問い合わせ】
沿岸域環境科学教育研究センター 秋元
Tel.096-342-3426
Fax.096-342-3411
E-mail:akimoto@sci.kumamoto-u.ac.jp
※10月23日(日)には、中・高校生を対象にした「石を見て触って、ハンマーで叩いて学ぶプレートテクニクス」を開催します。

➔ もうすぐ夏休み！ 熊本大学で自由研究をしよう



中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会
中学生の皆さんの夏休みの自由研究について専門的な立場からお手伝いできればと考え、工学部の教職員が中心になって実施します。併せて、大学院生による進路相談会も開催します。

日時/7月31日(日)9:00～17:00
場所/工学部百周年記念館、実験施設
対象/中学1・2年生
参加費/無料
申込締切/7月20日(水)まで

第8回夏休み自由研究相談教室
夏休みの自由研究で、研究の方法、調べ方、まとめ方などで困ったことはありませんか？ 大学教員と大学院生・大学生が自由研究のお悩みの相談に応じます。
日時/7月30日(土) 10:00～15:00
場所/教育学部理科棟1F 1-B講義室
対象/小学生(保護者同伴)、中学生、小中学校教員
定員/30名
参加費/無料

申込方法/相談内容・名前・住所・電話番号・学年をファックス、郵便、電子メールのいずれかでお知らせください。
申込先/
〒860-8555
熊本市黒髪2-40-1
教育学部地学図書室 渡邊
Fax. 096-342-2539
E-mail:2011rika@educ.kumamoto-u.ac.jp
【問い合わせ】
Tel.096-342-2547
URL:http://rika.educ.kumamoto-u.ac.jp/event/index.html

参加希望者の中で7月31日(日)に参加できない方には、研究テーマにより8月1日(月)～5日(金)の期間で相談をお受けしますので、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ】
自然科学系事務ユニット 松本
Tel.096-342-3610
URL:http://www.tech.eng.kumamoto-u.ac.jp/soudankai/index.html

相談テーマ	どなたが担当	申込時期	お問い合わせ
1. 自由研究	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
2. 自由研究のテーマ	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
3. 自由研究の進め方	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
4. 自由研究の発表方法	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
5. 自由研究の発表場所	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
6. 自由研究の発表内容	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
7. 自由研究の発表形式	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
8. 自由研究の発表時間	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
9. 自由研究の発表場所	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610
10. 自由研究の発表内容	自然科学系事務ユニット 松本	7月20日(水)まで	096-342-3610

→ 第4回X-Earthセンター市民フォーラム
～X線CTで見る体の不思議～

今年で4回目を数える「X-Earthセンター市民フォーラム」。今回は医療の現場で活躍するCTについて紹介します。また、中高生の体験学習の成果発表やCTクイズも行われる予定です。

日 時／8月6日(土)12:30開場
13:00～16:30

場 所／工学部百周年記念館
参加費／無料※事前申込不要
【問い合わせ】

X-Earthセンター 市民フォーラム事務局
Tel.096-342-3545 Fax.096-342-3507
E-mail:mukunoki@kumamoto-u.ac.jp

→ 「しんぶんカフェ」開店

5月23日(月)、本学に「しんぶんカフェ」が開店しました。この取り組みは、講義が始まる前の朝の時間を有効的に使おう、というのが目的。毎週月曜の7:30から8:30まで、学生ラウンジが「しんぶんカフェ」となり、学生は自由に利用することができます。朝食を持ち込んで、当日の新聞に目を通すことも可能。

初日は、約20名の学生が来店しました。新聞を上手く使うための講座や、スピーチの演習なども行っています。



→ みなまた環境マイスター養成プログラム
「ミニみなまた環境塾2 ～サイエンス&エコサマースクール～」

本学・水俣市・みなまた環境塾が地域とのつながりを深めることを目的とするプログラム。修了生・受講生・地元企業職員が講師となり、地域の小中学生と実験・実習を行います。

日 時／8月9日(火)9:00～15:30
場 所／みなまた環境テクノセンター

対 象／水俣市周辺地域

小学校高学年・中学生

定 員／30名程度

参加費／無料

※昼食をご用意します、要申込

講 師／エコロマスター、第3期受講生、みなまた環境塾講師

【問い合わせ】

自然科学系事務ユニット研究支援 前田

Tel.096-342-3519

URL:<http://ecomot.org/>

※12月6日(火)～8日(木)には、熊本会場「熊本交通センターホテル」と水俣会場「水俣市総合もやい直しセンター」において、「みなまた環境塾国際シンポジウム(MISSION2011)」を開催します

詳細は、みなまた環境塾HP:

<http://ecomot.org/>にてご確認ください。



東日本大震災における本学の対応について

このたびの東日本大震災により被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。

本学では、政府の要請に応じて平成23年3月18日(金)から4月13日(水)の期間に、8次にわたり災害医療支援チームを派遣し、宮城県石巻市石巻赤十字病院での医療活動及び牡鹿半島の避難所を中心とした巡回診療活動を行いました。

また、国立大学協会の要請に応じ、食料、飲料、生活用品等の救援物資、約4トン、を九州大学を通じて被災地の国立大学へ輸

送しました。さらに、教職員、学生を対象に義援金の募集を行い、総額11,036,240円を、熊本日日新聞社を通じて被災地へ届けました。

本学では、一日も早い復興を願い、今後も継続して支援活動を行ってまいります。

※熊本大学の支援活動の詳細はホームページ

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/earthquake/support.html>)をご確認ください。

震災復興・防災・日本再生のために
貢献できる分野のホームページ掲載

被災地等からの要請に応じた支援を行ってため、本学で行っている研究等の中から、震災復興、日本再生のために貢献できる分野をとりまとめ、リストを作成してホームページに掲載しております。

インターネットを活用した
高度教育基盤の提供

本学が加盟している大学eラーニング協議会が中心となり、被災大学を支援するインターネットを活用した高度教育基盤の提供を開始しました。熊本大学からは情報基礎A、情報基礎Bの学習コンテンツを無償提供し、併せて、eラーニング活用法に関する相談にも対応します。

➔ 熊本大学オープンキャンパス 平成23年8月10日(水)開催!

当日自由参加

オープンキャンパスでは、各学部の説明や模擬講義・研究室等公開のほかにも、見どころが満載です。
熊本大学の魅力を伝えるDVD上映会や国の重要文化財「五高記念館」を一般公開。また、国際交流や留学に関するセミナー紹介など、世界がぐん！と身近になる情報がそろいます。

黒髪キャンパス

■ 文学部

開催時間/13:00~16:30
集合時間/12:50まで
集合・説明会場/文・法学部棟A1・A2・A3・B1各教室
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。
※満席になり次第、受付を終了しますのでご了承ください。

■ 教育学部

開催時間/①10:00~12:10 ②13:10~14:55
集合時間/①9:15~9:45 ②12:15~12:45
集合場所/教育学部正面玄関前
説明会場/教育学部5-A・4-A・3-B・3-A・2-B各講義室、
くすの木会館レセプションルーム、5F会議室、1Fロビー(控室)
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。
※満席になり次第、受付を終了しますのでご了承ください。

■ 法学部

開催時間/9:30~11:30
集合時間/9:20まで
集合場所/文・法学部A1教室
説明会場/文・法学部A1・B1各教室
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。
※A1教室が満席になり次第B1教室へ案内し、B1教室が満席になり次第、
受付を終了しますのでご了承ください。

■ 理学部

開催時間/10:00~15:00
集合時間/①9:50 ②12:50
集合場所/理学部玄関前
説明会場/理学部D201・C122・C226各教室、各研究室ほか

■ 工学部

開催時間/9:30~15:10
集合時間/①9:00~ ②13:00~
集合場所/工学部2号館1Fロビー
説明会場/工学部2号館教室ほか

■ 国際交流・留学

開催時間/9:00~16:00
集合時間/①9:00 ②13:00
集合・説明会場/全学教育棟A棟2F国際化推進センター2B教室
※「留学コーナー」「外国人のための何でも質問コーナー」など。

本荘・九品寺キャンパス

■ 医学部医学科

開催時間/13:00~15:30
集合時間/12:50まで
集合場所/医学科医学教育図書棟第1講義室
説明会場/医学科医学教育図書棟第1講義室

■ 医学部保健学科

開催時間/①10:00~12:10 ②13:30~15:40
集合時間/①9:30~9:50 ②13:00~13:20
集合場所/保健学科玄関ロビー
説明会場/保健学科C503・A307・A312各講義室
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。
※満席になり次第、受付を終了しますのでご了承ください。

大江キャンパス

■ 薬学部

開催時間/13:00~15:30
集合時間/12:00~12:45
集合場所/薬学部正面玄関
説明会場/薬学部多目的ホールほか
※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。



※時間・場所等については変更する場合があります。
※8月10日(水)がやむを得ず中止の場合、12日(金)に開催します。

同時開催

九州・山口地区国立大学進学説明会

熊本で、九州・山口地区の国立大学12校の入試情報を得るチャンス! 奮ってご参加ください。

10:00~16:00
場所/全学教育棟 第1会議室

個別相談ブース

四つの国立大学職員が直接相談を受け、質問にお答えします。

資料配布コーナー

各国立大学の大学案内等の資料を配布いたします。

参加大学(予定)

山口大学、九州工業大学、福岡教育大学、九州大学、佐賀大学、長崎大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、鹿屋体育大学、琉球大学、熊本大学(以上12国立大学)

【問い合わせ】
学生支援部入試ユニット Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954
nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

➡ 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.14(平成23年3月1日～5月31日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者および教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成23年5月31日(火)現在、その寄附総額は約4億8,270万円となっております。

皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成23年3月1日(火)から5月31日(火)までの間に入金を確認させていただきました個人173名、9法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご

芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	出田 秀尚(300)					
【20万円】	安宅 康	熊本大学工業会熊本支部				
【10万円】	村中 稔(11)	昭和20年電気科卒業生一同				
【5万円未満】	岡崎美知治	坂本 修二	高橋 睦正	田頭 善郎	松村 祝男	向江 恭子
	医療法人まつもと眼科					

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

赤塚 和幸	浅山 滉[3]	荒木 一雄	伊佐 二久[3]	井芹 嘉久[2]	今井 一郎[3]	今井 博昭[4]
岩崎 紀子	上田 京二[3]	上塚 高弘[2]	江崎 忠	江崎 昭義	衛藤 光明[4]	大迫 栄子
緒方 優紀[4]	荻迫 光洋[2]	北山 洋一[2]	草野 龍二[5]	窪田 廉之	後藤 正	斉藤 朗
嵯峨 忠	迫 健市[3]	佐藤 千栄子	里野 美鈴	柴山 佳夫[4]	下山 高生[4]	瀬戸 致行[2]
瀧井 一信[4]	武本 重毅[2]	田崎 修一郎[2]	溜淵 武雄	富安 真二郎[2]	中川 昭一[3]	中隈 久幸[2]
永田 達也[4]	中原 和彦	中村 孝彦	中山 慶明	野尻 紘聖	野田 正紀	橋口 治[4]
橋口 純[2]	長谷川 秀[3]	服部 新三郎[4]	浜辺 鶴志	林田 幸一[2]	春山 忠幸	東 孝行[2]
日高 敏昭	堀 伎美子	本田 孝[3]	松 朋代	松隈 知子	松山 公士[4]	宮崎 瑞子
村上 健太郎[4]	森 正人[2]	森 保士	柳田 喜美子	柳田 琢也	山下 卓郎	山下 智文[2]
山本 國男	吉田 知行	和井田 節子	和井 やす子	渡邊 陽一		
上田工業株式会社		株式会社ミカド科学産業				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人96名、3法人・団体等

➡ 池松静香様から5,000万円のご寄附をいただきました

このたび、池松静香様から、医学部眼科教室および熊本大学の発展のために活用してほしいと、熊本大学基金に5,000万円のご寄附をいただきました。

池松様は、昭和14年に帝国女子医学業学専門学校(現・東邦大学)を卒業後、郷里の熊本に戻られ、熊本医科大学(現・熊本大学医学部)の眼科教室に副手として勤められ、戦時中のさなか孤軍奮闘されたそうです。

終戦後、教授の「もっと科学しなければ」という言葉を胸に秘め再び上京し、東京都内の眼科病院で研鑽(けんさん)され、昭和29年に千代田

区神田神保町で池松静香九段下眼科を開業されて以来、地元の方々と相手に最近まで開業医生活を続けておられました。

このたびのご寄附は、熊本医科大学の眼科教室での経験の恩返しであり、医学部眼科教室および熊本大学の発展のために役立ててほしいというお気持ちから、熊本大学基金にご寄附をいただいたものです。

なお、平成23年5月16日(月)、谷口学長から感謝状と副賞の扁額が贈られました。



谷口学長と池松静香様

熊本大学 オープンキャンパス

WELCOME TO KUMADAI

2011.8.10 Wed

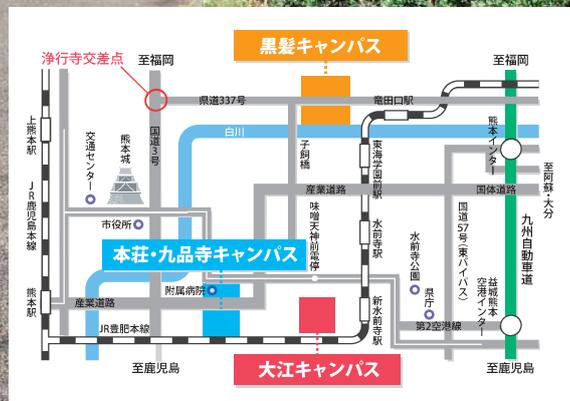
当日自由参加 OK!

黒髪キャンパス 文学部・教育学部・法学部・理学部・工学部

本荘・九品寺キャンパス 医学部 (医学科・保健学科)

大江キャンパス 薬学部

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>



黒髪北キャンパス「五高記念館」

がんばれ受験生!

参加者には、もれなく
力強い受験の味方
「赤門合格キット」を
プレゼント!



国立大学法人
熊本大学

■お問い合わせ
熊本大学学生支援部入試ユニット
Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954
E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp